

グローバル人材育成と英語の授業

石森広美



昨今、「グローバル人材」育成の必要性が叫ばれている。勤務校は宮城県で唯一のスーパーグローバルハイスクール（SGH）指定校であり，教科横断的な探究学習である「課題研究」を中心に，グローバル人材を育てるべく，様々な実践が行われている。

全生徒に地球市民としての素養を持たせるには，学校全体の取り組みに加え，平常授業においても生徒に思考力・表現力・判断力やコミュニケーションスキル，課題解決力などが育まれるよう，教授・学習方法などに工夫を施す必要がある。英語の授業においては，異文化への寛容や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度，世界への関心などの育成も重要である。

本稿では，筆者の実践を支えてきた国際理解を軸に，教科書で4技能をバランスよく育て，グローバル人材育成にも寄与しうる授業のあり方について考察する。

＜・英語教育と国際理解

多くの人にとって英語の授業は，世界へ目を開ける入り口である。授業において英語学習と国際理解を結合させることにより，国際問題への関心を高め，当事者意識や共感の心を育てることが大切である。英語の授業で育成すべき総合的コミュニケーション能力の構成要素には，言語能力や方略能力などの運用能力のみならず，異文化受容や共感的理解などの態度・姿勢や世界の様々な事柄についての知識や考えも含まれる（村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店，2006年）。英語教育は言語運用能

力の養成とともに，地球市民としての対話と共生を推し進める営みを包摂するものと考えている。

そうした基本姿勢で教科書をフル活用し，内容に関心を持たせながら4技能をバランス良く育てよう授業を工夫する。ことばの運用において4技能はそれぞれ切り離されることはなく，習得過程においても，すべてが連動することで語学力を伸長させ，最大限の効果を生み出すことができる。

＜・世界に目を開かせるコミュニケーション英語

教師の着眼点や切り口次第で，英語の教科書はグローバル人材を育む場となる。コミュニケーション英語の教科書には，異文化のみならず，平和，環境，人権，開発等の地球的な課題なども多く扱われている。とりわけ *Genius English Communication* は心に響き，生き方を考えさせるような，生徒に読ませたい内容にあふれており，良質な国際理解・人間教育のテキストともいえる。例えば，*Genius I* では，100人村から見える世界の格差，ボルネオの熱帯雨林の破壊，ホロコーストから考える人権・平和，命，フェアトレード，水危機，ボランティア活動など，グローバルで良質な題材に富んでいる。これを単に新出単語や構文，文法を教えるだけのツールにするのはもったいない。内容理解を深めさせ，問題の背景や解決法を考えさせる内容重視の教授法により，生徒に国際的教養と自分の考えを持てるよう支援したい。

授業の流れは，概ね次の通りである。まず，教科書の本文をCDで聞き（Listening），読解し（Reading），英語のQ&Aなどを通して内容理解

を確認する。さらに CD を繰り返し聞きながら (Listening), 異なる形式 (教師の後や CD の後に続いての一斉リピート, 個人練習, ペア練習, ペアチェック, Read & Look up など複数の技法の組み合わせ) で何度も音読する (Speaking の土台)。内容を理解した後に, 重要構文を活用して, 自分のことについて作文させ, ペアで話させてみる (Writing, Speaking)。また, 各パートや単元の終わりには, その題材からの学びを振り返らせ, 自分の意見を一定量英語で書かせ (Writing), ペアでインタビューし合い, 全体でも発表させる (Speaking)。授業では教師の指示や説明はほぼ英語で行われるため, 生徒の Listening 活動は常に進行している状況である。

例えば, “A Village of One Hundred” (L1) は, 世界の貧富の格差などを紹介している。主な言語材料は, to 不定詞や形式主語 it の用法である。構文や文法事項を含めながら言語活動を行う際, 本文の内容を踏まえ, It is very important for every child to have a school education. / To live without safe drinking water is impossible. It is necessary for us to have access to fresh water. といった文章を提示, 生徒にも作文させた。また, 教師の問いに対する内容についての意見交換なども多様なスキルの統合に役立つ。

〈Questions 例〉 What surprised you most about the story? Why? What will you do about it?

〈実際の生徒の回答例〉

● I was surprised that the poorest fifty in the village share only 1 % of the wealth. I think that people living in the village are not fair. I think people should live in the world equally.

● I was surprised that three children in the village will not live to see their fifth birthday because I thought children usually live without difficulties. I want to tell this problem to many people. If more people know this problem, we can volunteer for children. (以下略)

また, 日本文化の風呂敷の良さと「もったいない」の精神を扱った “More Than Just a Piece of Cloth” (L3) のまとめの活動では, 生徒に既習表現を用いて外国人に風呂敷の魅力を発信するスピーチをさせた。

〈実際の生徒のスピーチ例〉

● *Furoshiki* is a square cloth. It is used for wrapping, storing and carrying things, so it is very useful. Today, it has evolved into stylish cloth with various patterns. By the way, do you buy plastic bags in a supermarket? Plastic bags lead to global warming. *Furoshiki* can take the place of plastic bags, because we never throw *furoshiki* away. *Furoshiki* is a Japanese culture. We have to be proud of it and Japanese idea of *Mottainai*. I want to treasure them and use *furoshiki* a lot.

以下は環境問題を扱った “Borneo’s Moment of Truth” (L4) からの気づきをまとめたものである。

● I think that it is very important to protect biodiversity. I knew using a lot of palm oil in my life, but I want to reduce the amount of products made from palm oil. And I would like to know about wildlife situations in the world, because understanding it is the only thing that I can do now.

*

課末には Discussion や Project も設定され, 教科書の題材を基に考えを深め, 表現するよう設計されている。教科書を使いこなすことで, 4 技能のすべてを無理なく取り入れ, 統合させることができるだけでなく, 国際理解を深め, グローバル社会に必要とされる様々なスキルを涵養できる。適切な資料提示やタスク, ワークショップ等も取り入れれば, より学習効果が高まる。SGH としては, “Water Crisis” (L8) は本校の研究テーマ「世界の水問題の解決への取組」と関連が深く, 背景知識を学ばせるのにも大いに役立った。英語 (外国語) の授業が生徒の豊かな学びを促し, 世界の平和と共生に少しでも役立つものでありたい。(いしもりひろみ・宮城県仙台二華高等学校教諭)